



はんしん2020s

写真・文 山田哲也

36

「東の登呂、西の田能」と称され、わが国を代表する田能遺跡(尼崎市田能6)が発掘作業が終わって40年を迎えた。

田能遺跡は1965(昭和40)年9月、園田配水場の建設工事現場から大量の弥生式土器が出土した。発見したのは当時、尼崎市水道局

### 田能遺跡

西部建設事務所の現場監督だった北川輝忠さん。ブルドーザーの掘り起こした土の中から土器のカケラと完全な形をしたツボを見つけ出した。

翌月には緊急調査団が編成され、1年に及ぶ調査が始まった。発掘は現在のように埋蔵文化財の調査が整備されていない中、建設工事と並行



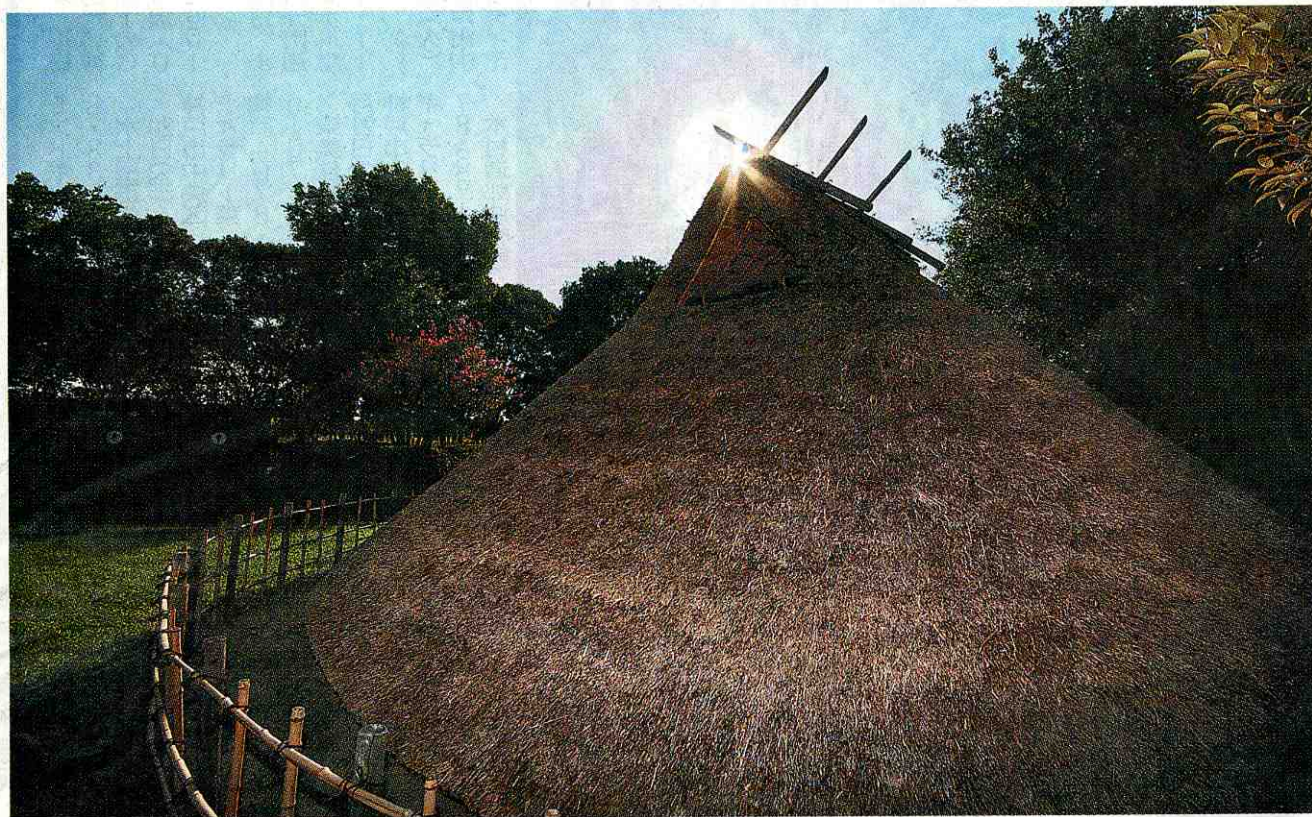
この調査で土器や石器に加えて、住居跡や溝、墓などの遺構が見つかった。なかでも木棺墓や壺棺墓の発見は、近畿地方における墓の形態や埋葬状況が解明され、弥生時代の身分社会を知る発端となったという。遺跡は調査終了後、配水場建設で

破壊されることになっていたが、市民が保存運動を行い建設計画が変更された。田能遺跡は約3畝の盛り土をして保護し、史跡公園として整備された。70年には出土品を展示收藏する市立田能資料館が開館した。

同資料館では今月15日(日)まで、「田能遺跡―40年目の再発掘―」と題した企画展が開かれている。また、11月4日には、田能遺跡まつりが行われる。

問い合わせは、同資料館(06・6492・1777)。阪急園田駅から市バスで田能口下車。徒歩15分。開館時間は午前9時から午後5時15分、月曜日が休館。入館料は無料。

## 市民の保存運動で破壊免れ



弥生時代の住まいを復元した円形平地式住居。小学生を中心に年間約5万人が訪れる